

# 同窓会ニュース

## 第12号

**東北大学機械系同窓会**  
 〒980-8579  
 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-01  
 東北大学工学部機械知能・航空工学科内  
 電話：(022) 795-6926  
 F A X：(022) 795-6926  
 E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp  
 ホームページ http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/  
 郵便振込口座  
 番号 02270-8-11176  
 名称 東北大学機械系同窓会  
 印刷 東北大学生協同組合

### 新制度に移行する機械系教員組織

機械系で現在進められている制度改革の中で、もっとも重要と思われる教員組織の新制度への対応を、紙面をお借りして同窓生の皆さんに説明させていただきます。

平成十九年四月から始まる教員組織の新制度では、助教は「助教」の呼称が変更されます。この助教の呼称変更によって、助教を助ける者から教授に準じる業績や資質能力を有する者という位置づけが明確にされます。

一方、助手は助教と助手に分かれます。助手から助教となるもの、あるいは新たに助教として採用されるものは、助教として授への昇任を目指すキャリアパス

の第一段階に位置するもので、新規採用者から任期制、再審制を適用することが検討されています。このような新制度の導入は、優れた助教・助手が教授から独立して活躍できる教員組織の整備を進める学校教育法の一部改正に呼応しています。なお、教授と講師の呼称に変更はありません。

工学研究科では昨年の春以来、総務企画会議で教員組織の新制度の検討が始められました。また、機械系においても工学研究科に導入される教員組織の新制度案に沿いながら、機械系の若手教員の自律性をさらに高め、同時に機械系の高いアクティビ

ティ維持が可能な新たなスキームを慎重に検討して参りました。機械系教授相談会で審議を重ね、機械系に在籍する助教、講師、助手との意見交換を経て、これまで機械系に導入される教員組織の新制度案の枠組みが決まっています。今、機械系に導入される教員組織新制度の最大の特徴は、分野内独立研究室制度への移行です。

教授と助教を完全に分離した運営形態も検討されましたが、特に実験系の先生方から研究上のアクティビティ維持が難しくなるなどの指摘があり、現状との中間的な制度として分野内独立研究室制度が考案されました。この制度では、教授と助教が同一分野内で異なる研究室を持ちます。このように教授と助教

の研究室を同一分野内に留めることによって、分野全体の教育の実施が可能になります。また、教授が分野の管理運営上の責任を担うことが明確になります。一方、教授と同じ分野内とはいえず、教授研究室とは独立の研究室を持つことによって、准教授の研究上の自律性、独立性が外部に対して明確になります。この点をさらに実質化させるために、学部や大学院学生の研究室配属では教授研究室と助教研究室を個別に扱い、准教授が学生を直接受け入れる仕組みを導入いたします。

従来、工学研究科においても機械系においても分野制が導入され、大学院重点化後も実質的に小講座制が維持されてきました。その一方、機械系では、運営交付金を講師以上の教員に

毎年三月に、会員企業による『機械系テクノフェスティバル』が学生主体で開催されています。この機械系テクノフェスティバルは、会員企業による会社説明会、昨年から、大学外での会場を借りてテクノフェスティバルを開催しており、多くの学生が熱心にブース回りをし、情報を集めています(写真)。

機械系学生は、この時期から就職のことを真剣に考えるようになります。この他にも四月初めには会員企業による『技術紹介セッション』が開催されます。

また、企業の採用担当経験者を講師に、就職における指導や採用面接面接等を行う就職セミナーも開催しています。現在、機械系では毎年一八〇名程度の修士・学部学生が就職しますが、内二／三は大学推薦で、一／三が自由応募で就職しています。おかげさまで求人数は非常に多く、ほとんどの学生は第一希望の会社に

就職しています。

同窓会の皆様におかれましては、今後とも機械系産学連携推進室の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(産学連携推進室ホームページ: <http://www.open.mech.tohoku.ac.jp/>)

1 機械系研究室は機械システム

### 機械系産学連携推進室

#### 機械系産学連携推進室

機械系研究室と産業界との連携の促進、機械系学生に対する技術教育ならびに就職活動を支援することを目的として設置された機械系産学懇談会についてご紹介いたします。機械系産学懇談会は機械系研究室1に所属する講師以上の教員と、上記趣旨にご賛同いただいている企業社員で構成されています。本懇談会を運営する機械系内の組織として産学連携推進室があります。

ていただいております。

機械系産学懇談会の主要な事業活動は以下の三項目からなります。

(1) 産学共同研究の促進  
 (2) 技術教育の促進  
 (3) 就職指導の支援

(1)の産学共同研究では、毎年五月に機械系研究室の研究内容をまとめた紹介誌『Open』を発行しております。また、毎年二回の研究室見学会を開催し、これまで十二回の見学会開催となりました。研究室見学会では、毎回四研究室の紹介と見学会が催され、午前中は指導教員による研究紹介、午後は四研究室の見学会、夕方に交流会を開催して、会員企業と教員との交流・親睦を図っております。これまで、四十八研究室の見学会を行い、ほぼすべての研究室見学会が一巡して昨年から二順目の研

究室見学会となっております。見学会には毎回六十〜九十名程度の多数の企業会員のご参加をいただいております。

(2)の技術教育の促進では、機械系修士一年生の学生を対象に、夏休み時期に二〜三週間のインターンシップ(企業研修)を行っております。このインターンシップには、二〇〇六年度は研修受け入れ企業数二七社、インターンシップ研修生として頂いた学生は、その後の学生(研究)生活、および、将来の進路選択に資する貴重な経験を得ています。

また、年一回、機械系を卒業されたOBの方々を講師に迎え、機械系学生向けの技術講演会を開催しています。二〇〇六年度は(独)宇宙航空研究開発機構角田宇宙センター所長の若松義男氏、および、本田技研工業(株)常務取締役の高野明氏にご講演していただき、多くの機械系学生が聴講させていただきました。

(3)の就職指導の支援では、

同額支給すること、研究室の名称に助教や講師の名前を連ねて外部から若手教員が出来る限り見えるようにすること、そして機械系研究センター制度の活用によって助教や講師が外部から研究資金を獲得し易くすることなど、若手教員の自律性を高めるさまざまな工夫を導入してきました。今回、分野内独立研究室制度を新たに導入して、若手教員の自律性向上をさらに一歩前進させようとする試みは、過去の小講座制が徐々に解体されていく時代の大きな流れを先取りするものと言えるかもしれません。

このように機械系は、研究分野のアクティビティ維持に細心の注意を払いながらも、平成十九年四月より若手教員の自律性を高めることを目指した教員組織の新制度に移行いたします。機械系同窓生の皆様には、新制度下で機械系の若手教員が生き生きと活躍し、同時に機械系全体も従前に増してアクティブな研究教育活動を展開していく姿をお見せしたいと切望いたします。同窓生の皆様のご理解と変わらぬご支援を今後とも賜りますようお願い申し上げます。

澤田 恵介 (機械系系長)

ARLISS (A Rocket Launch for International Student Satellites) カムバックコンペティションと呼ばれる、航空宇宙工学をめざす若者を主な対象とした競技会が、米国ネバダ州で開催されています。この競技会では、参加者が製作した総重量一〇五g以下のペイロード(衛星モデル)を、固体燃料ロケットを使って上空四〇〇〇mまで打上げ、パラシュート降下中もしくは軟着陸後にペイロードが自律制御をおこなうことにより、地上にあらかじめ設けられたゴールへの到達距離を競うものです。同競技会は、UNISBC (宇宙工学コンソーシアム、日本)、スタンフォード大学(米国)、AEROPAC (太平洋ロケット実験協会、米国)の共催により二〇〇二年より実施されており、本年は、日本、米、スペイン、韓国より計十三大学からの参加がありました。(ただし、韓国はオブザーバ参加)東北大学からは、パラシュート降下中に飛行制御を行う「ゴ

ルへの着地を目指すFly-back型チームと、軟着陸後に地上を走行してゴールへの到達を目指すRun-back型チームが参加しました。強風でパラシュートが数キロメートルも流されるという悪条件の中で、Run-back型のAチーム(代表:関口晃博君)がゴールまで六m、同型のBチーム(代表:吉川岳君)がゴールまで四十四mという好成績を挙げて、一、二位を独占しました。三位以下は二〇〇m以上のスコアでした。

航空宇宙工学専攻では、文部科学省が推進する「魅力ある大学院教育イニシアティブプログラム」の一環として「航空宇宙フロントティア」と名づける新しい授業を平成十八年度より実施しています。授業では、飛行実験を伴うチャレンジングなプロジェクトに取り組みすることにより、創造性やリーダーシップに富んだ人材育成を行うことを目指しています。ARLISSカムバックコンペティションへの参加も、同教育プログラムの実践活動の一部として実施されました。

今回、他大学を大きく引き離して優勝できたことは、「航空宇宙フロントティア」教育プログラムのひとつの大きな成果であると言えます。軟着陸後に砂漠を走行してゴールを達成する技

### 航空宇宙工学専攻におけるフライト実践による教育活動と学生の優勝

術は、超小型ロボットによる将来の惑星探査につながるものであり、また、厳しい条件の中でミッションを完遂した実績は、極限状態を追求する航空宇宙技術や、現実世界で役立つロボット技術の開発へ向けての大きな足がかりになると手応えを感じています。

なお、「航空宇宙フロントティア」教育プログラムでは、展開翼滑空機や全翼機、複翼機などの飛行機体を製作し、風洞実験を経て、阿武隈川河川敷飛行場にてフライト試験をします。これらの詳細については、ホームページでも紹介をしていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.astronaut.tohoku.ac.jp/AerospaceFrontier/>

また、機械系特任教授「瀬名秀明がゆく」のホームページにも、関連記事がありますのでご覧ください。(シリーズ一〇)

<http://www.mech.tohoku.ac.jp/sena/index10.html>

吉田 和哉 (航空宇宙工学専攻教授)



機械系テクノフェスティバル (平成18年3月: 仙台国際センター)

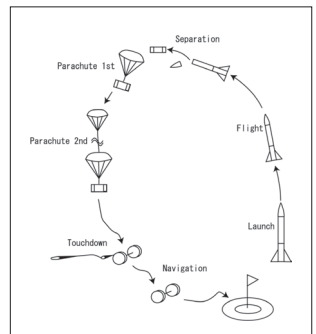


図: ARLISSカムバックコンペティションにおけるRun-Backミッションの概要

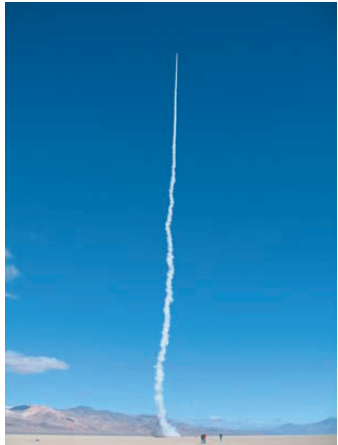


図: ロケット打ち上げ (米国ネバダ州ブラックロック砂漠)

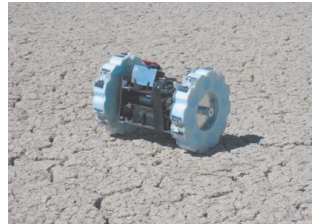


図: 砂漠の上を走る自律ロボット



図: 優勝チーム (一番右が筆者)







から庭の名を「後楽園」とした。会場の瀟々亭の広間(盧山)は、後楽園の庭に面した一角にある。庭を見ながら、三時間半の時間を飲食・会話ともにゆっくり過ごすことができた。機械系同窓会誌に投稿する原稿に添付する集合写真を、山崎 勉氏に依頼して撮影したあと、山崎氏がドイツ旅行の途中メインツの蔵元で買い、会場まで持参したメインツ産のスパークリングワイン二本を開け、出席者一同で乾杯した。過去一年間、物故者がいなかったことはなによりであった。

当日、東海道新幹線を使い、神戸、名古屋、浜松から同期会に出席する仲間が四人いた。しかし、この日の朝、午前八時半ごろ東海道新幹線静岡駅で、通過中の東京発広島行き「のぞみ六十一号」に男性がホームから線路に飛び降り、はねられ即死した。このため、新幹線は後続の上下五本が運休し、約二時間半後の午前十時四十五分に運転を再開した。JR東海静岡支社によると、午後十時までに、上下計三十八本が運休、計二〇五本が最大で三時間五〇分遅れ、乗客約十六万四〇〇〇人が影響を受けた(以上東京新聞の記事による)。

その席にいた小野 伝氏は、その後「こま」に興味を持ち、最近自作のウェブ「科学的こまを作る」(注2)の中で、写真入りで「こま」の解析と解説をするまでになった。この日は、参加者全員に、自作の「ラトルバック」(Tattle Back)回転させる、途中で逆方向にまわり出す、長さ一五ミリ、幅二五ミリのカヌー状の形をした木製のこまをプレゼントしてくれた。

新幹線に乗車していた四人(市川・木村・星宮・和田の各氏)も影響を受けた。十時五分、停車中の新幹線車内から私の家に電話をかけてきた市川嘉宏氏は、列車が動き始めても同期会に間に合わないと判断し、列車が動きはじめたと京都駅から神戸へ引き返すと伝えてきた。十時三十五分に、浜松駅に停車中の新幹線車内から一遅れるけれども必ず行くから」と電話をかけてきた和田龍児氏は八十分遅れて会場に到着した。十二時五分に、「ことによったら行けなくなるかも知れない」と会場に連絡のあった星宮伸光氏は二時間遅れて会場に着いた。一同拍手で乾杯を繰り返した。会場に連絡のなかった木村六三郎氏は、同期会終了三十分前、かばん片手に会場に姿を現した。一同、拍手と歓声で迎え、ふたたび「乾杯!」をした。

議論になった。昼間開催するならば、東京会場のほうが多くの方が参加できる。よって仙台で日帰り開催しても意味がない、いや、昼間の同期会だけで出席して、前後の時間を仙台での自由行動に使えるから、仙台でやるなら、一泊しなければ遠出する意味がない。しかし、仙台一泊では、家を空けられない人は参加できず、参加者が減る。その他の意見も交錯し、結論のでないうちに同期会終了時刻になってしまった。結局、世話人が、塩釜市在住の福来友康氏と相談し、来年の計画を考えることにした。

新幹線に乗車していた四人(市川・木村・星宮・和田の各氏)も影響を受けた。十時五分、停車中の新幹線車内から私の家に電話をかけてきた市川嘉宏氏は、列車が動き始めても同期会に間に合わないと判断し、列車が動きはじめたと京都駅から神戸へ引き返すと伝えてきた。十時三十五分に、浜松駅に停車中の新幹線車内から一遅れるけれども必ず行くから」と電話をかけてきた和田龍児氏は八十分遅れて会場に到着した。十二時五分に、「ことによったら行けなくなるかも知れない」と会場に連絡のあった星宮伸光氏は二時間遅れて会場に着いた。一同拍手で乾杯を繰り返した。会場に連絡のなかった木村六三郎氏は、同期会終了三十分前、かばん片手に会場に姿を現した。一同、拍手と歓声で迎え、ふたたび「乾杯!」をした。

### 精密三十三年卒同期会

前回の仙台での同期会から、三年になるうとする昨年末に、前同幹事の矢野君から「一度は関西での同期会を」と、神戸の横山君に声が掛かった。それを受けて関西組三人が協議して「四月に有馬温泉で、翌日は三人の車でゴルフと六甲山、神戸市街の観光案内、他は各自の自由行動」とあっさり意見がまとまる。その後は横山、山屋両君が、すばやく会場の選定、宴会内容の交渉をしてくれて、平成十七年四月十二日(火)、神戸市の有馬温泉月光園・遊月山荘で開催と決り、一月中旬には皆同期会案内を発送することができました。

無事自由席が確保でき帰宅しました。というメールが届いた。濱松市在住の星宮氏からは「小生はあれから、十六時五十分六分発のこまち号(秋田新幹線)で墓参に出掛け、昨夜遅く帰ったところですよ」というメールが、二十七日に届いた。廣安氏からも、二十六日夕方韓国から「今朝、早く成田からソウルに来て、一仕事をしてくれから夕食会という事です」と、メールが入った。出席できなかった市川氏(神戸市)は、二十七日「新幹線利用の方々は、それぞれ苦労されたようですね。来年の話は早すぎますが、体力、

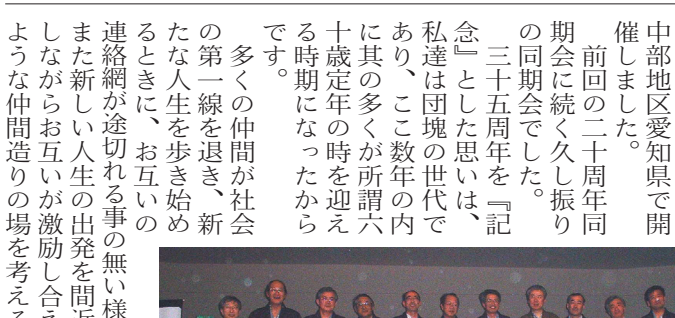
### 精密三十六年卒同期会

卒業時に三十六名。今は関東地区に二名、東北に二名、九州・中部に二名、関西に四名、四国に各一名が在住する計三十三名の会であり、卒業年に因んで「青葉山麓会」としている。卒業後略十年毎の節目節目に、開催場所も東京、仙台、熱海、鎌倉と変えて同期会を開催、また平成二年七月には川本信彦さんが本田技研工業(株)の社長に就任した祝賀会を開催した。六十五歳を越え、現役を終えて後進を指導する立場になった人や、セカンド・ライフになった人が増えてきた平成十五年頃からは、「もつと会おうよ」という声が高まってきた。

「あの懐かしさ」を新たな人生へ繋ごう  
今回は、卒業三十五周年「記念」同期会として、恩師を始め、全国に散らばる同期生に、出来るだけ多く参加して貰える様に、日本の真ん中、中部地区愛知県で開催しました。  
前回の二十周年同期会に続く久しぶりの同期会でした。「記念」として思いは、私達は団塊の世代であり、ここ数年の内に其の多くが所謂六十歳定年の時を迎える時期になったからです。  
多くの仲間が社会の第一線を退き、新たな人生を歩き始めるときに、お互いの連絡網が途切れる事無い様に、また新しい人生の出発を間近にしながらお互いが激励し合えるような仲間造りの場を考えると



藤原 信彦 (精密工学科33年卒)



山田 民生 (精密工学科46年卒)

### 精密四十六年卒同期会

三十年では早過ぎ、四十年では遅すぎ、この時期が最良のタイミングとなります。  
今回は、平成十八年五月二十七日、三河湾を臨む、吉良海岸の「東宴」で開催し、永井伸樹先生、加藤正名先生、箱守京次郎先生、守時一先生、の四師のご参加を頂き、五十四名の全同期生の内二十六名と其の奥様三名の参加で大変賑わった同期会となりました。  
JR名古屋駅で多くが集合し、その足で産業技術記念館を見学し、日本が培った技術の変遷を観、そこに燃え生きた人間の情熱を感じながらバスで宿へと移動しました。  
同期会を通じて、恩師のお元氣なご様子に接し、また、それ

専門的话题(例)  
・国立大学の法人化と改革  
・エネルギーセキュリティ(化石燃料の枯渇と代替エネルギー)  
・中国の自動車産業  
・眼の構造と光学器械  
・工作機械の最近だけでなく、セカンド・キャリアとして培ってきた話題(例)  
・言語の習得  
・イタリアとイタリア語  
「遊び」は、先ず「共に歩き」「共に楽しむ」ことが大切と  
・横浜国立大学の見学  
・鎌倉の桜を楽しむ会  
を行なってきた。  
集まったら懇親会をやるのは当然として「共に飲み、語り」「活き活き老いる秘訣を披露し合う」ことを重ねてきている。今後は三、七、十一月に開催し、一度は小旅行も入れる、幹事は出身研究室が順番に担当して、「皆で工夫」とお役立ちの喜びを共有することとしている。  
荒川 忠 男 (精密工学科36年卒)



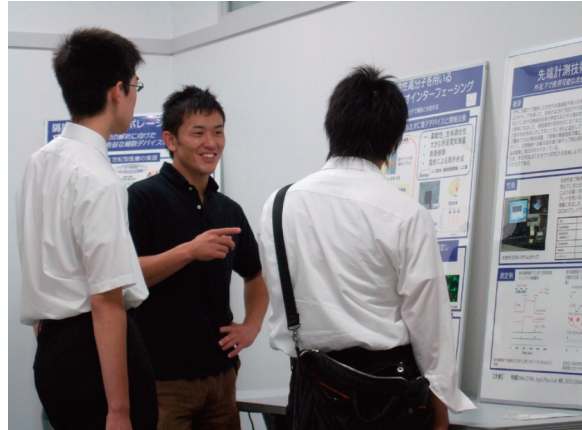
# オープンキャンパス講義

理工学系への進学を目指す高校生諸君に、機械系の面白さをぜひ知っていただきたいという思いから、東北大学機械系では二〇〇五年度より各地でオープン講義を開催しています。二〇〇六年度は、七月二十六日の東北大学青葉山キャンパスでの開講から始まり、盛岡（盛岡第三高等学校（八月十九日）、高崎（群馬県立高崎高等学校（九月十六日）、高崎（群馬県立高崎女子高等学校（十月十三日）、弘前（青森県立弘前高等学校（十一月十日）、山形（山形県立山形東高等学校（十一月十八日）において開催いたしました。二〇〇六年度のオープン講義には二つの特色があります。一つ目は、進路指導の先生方のご協力を得て、いくつかの地区では高校の校舎でオープン講義を実施したこと。いつもの校舎で大学の授業を体験できま

# オープンキャンパス

平成十八年度七月二十七日、二十八日の両日、毎年の恒例行事となっておりますオープンキャンパスが開催されました。機械・知能系では、六十名の公開テーマと九の最新科学体験コーナー、三の公開施設と例年を大きく上回る出展がございました。二十八日はあいにくの雨天でございましたが、二日間で合わせて二三〇〇名近い見学者が機械・知能系を訪れました。これは、工学部見学者数のおよそ半数が機械・知能系を訪れた計算となり、見学者の大半を占める高校生の機械・知能系への関心の高さを反映しているものと思われます。

まず、見学者の内訳ですが、九割が高校生でした。その大多数が次には説明者になりたいと回答していることから、東北大生への進学を希望していることが分りました。アンケートは見学者終了後に回答をお願いしていることから、説明員としての活躍している大学院生の熱意が高校生にうまく伝わっているのかもしれない。次に、見学者が来られた地域ですが、昨年度と比較して北関東から来られている高校生が増えているのが特徴的でした。各地域へ出張して行なっているオープン講義と連動して参加者が増加しているようです。オープン講義は東北大学に関心を持っていただけるよききっかけになるようです。興味ある機械工学の分野、面白かったセッションについては、例年と同じくロボットや航空・宇宙関連と感じた方が多数お



た!!  
・女性研究者に対する、イメージがかなり変わった。女性に對して、やさしい環境が整っていることにおどろいた。  
・少し難しかったけど役立ちました。ありがとうございます。  
・パイオのことについて、もっと詳しく聞きたいと思いました。  
・宇宙工学が少し面白そうでした。  
・とても内容の濃いお話で、あつという間に時間が過ぎ、とても楽しく過ごせました。  
・航空宇宙工学にとっても興味を持ちました。  
・工学部といってもパイオの研究がイメージとちがって、強い興味をもちました。  
・パイオテクノロジーに関する講義が大面白く、パイオテクノロジーへの関心がより深まりました。他の分野も大変興味深く、工学系に対しての興味が深まりました。  
・北海道から来たかきがありましたが、とても今後の参考になりました。地震は怖いですが、ここで工学を学びたいという意識が高まりました。  
・ロボットや飛行機のことより深く理解できておもしろかったです。この講義で自分のやりたいことが見つかった感じがしました。  
・ロボット関係をよりくわしく知ることができた。  
・人間の根源から、未来のロボット、人間との関係など、工学部または機械系に限らず、科学を楽しめました。  
このほかにも「絶対に合格してやる」といったものや、「自分が何をしたいのかという明確な目的を持つことがいかに大切なことか」ということを考えるきっかけとなりました」といったものもありました。以上のコメントは本講義が単なる宣伝にとどまらず、学生の意欲向上にもつながっていることを示していると考えています。  
集計したデータも概ね好評であり、今後もこのような地道な広報活動を続けていくことが重要と考えています。  
同窓生の皆様におかれましても、本活動を末永くご支援いただきますようよろしくお願いたします。  
厨川 常元  
(ナノメカニクス専攻教授)

# 退官教授

平成十九年三月三十一日付をもって、加藤康司先生、中村維男先生、清野慧先生が定年退職を迎えられます。これに先立ち平成十九年二月十六日に惜しまれつつ三人の先生方の、以下の最終講義が行われました。  
「トライボロジーの歴史とこれからの50年」  
加藤 康司 先生  
Retracing Past Research and Educational Events  
中村 維男 先生  
「基準ということ」  
清野 慧 先生



会場となりました機械系第一講義室には、大勢の在学生、卒業生および教職員が詰めかけ、最後の講義に熱心に耳を傾けていました。講義内容をノートに書き止めていらっしゃる方も多数見受けられました。また、最終講義の後、青葉記念会館にて祝賀謝恩会が行われました。教員を中心とした参加者と三人の先生方の尽力で、閉会となりました。  
加藤康司先生、中村維男先生、清野慧先生、長きに亘る御指導本当に有難うございました。ますますお元気で、さらなる御指導の程、宜しくお願いたします。  
安部 隆  
(パイオロボティクス専攻助教授)

## 事務局より

- ◎勤務時間の変更になりました  
当同窓会事務局員の勤務時間が下記のとおり変更になりました。つきましては、連絡にはE-mail、ファックスなどをご利用いただき、運営にご協力下さい。  
勤務時間 月・水・金 10:00-16:00
- ◎同級会（同期会）ニュース  
報告・記事の原稿を投稿してください。字数800~1,000文字、記念写真一葉と一緒に。封筒に原稿在中と明記のこと。送り先は機械系同窓会事務局。
- ◎同窓会誌にご投稿を！  
テーマ自由。約2,000字。事務局にご連絡下さい。執筆要綱をお送りいたします。
- ◎住所変更の場合、必ず新住所をお知らせ下さい。同時に旧住所の最寄郵便局で新住所宛の回送手続きをとって下さい。
- ◎海外に駐在される方は、駐在先の住所をご連絡下さい。帰国後は、直ちに現住所をお知らせ下さい。
- ◎懐かしいお写真を事務局までお寄せ下さい。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させていただきます。
- ◎紙面の都合で、会員の訃報は同窓会誌に掲載いたします。

## 平成18年度通常総会予告

平成18年度通常総会は、平成19年5月19日(土)アルカディア市ヶ谷(私学会館)にて開催されます。多数会員のご出席を御願致します。  
記  
日時：平成19年5月19日(土)  
会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25  
TEL: 03-3261-9921、FAX: 03-3261-7760  
http://www.arcadia-jp.org  
次第：14:00-14:50 総会  
15:00-16:45 特別講演会  
題目：完璧品質をつくり続ける生産方式  
講師：佐々木 久臣 氏(精密 昭和40年卒)  
製造経営研究所代表、東京大学 特任研究員  
元いすゞ自動車(株)専務取締役、  
元 ISPOL(ポーランド)会社 社長  
元旭テック(株)社長  
17:00-19:00 懇親会  
会費：10,000円(年会費を2,000円を含む)  
連絡先：東北大学機械系同窓会事務局 武井康子  
(月・水・金 10:00-16:00)  
Tel/Fax: 022-795-6926、e-mail: dousou@mech.tohoku.ac.jp  
http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/  
※アルカディア市ヶ谷は宿泊施設がありますので、遠方からの皆様にも大変便利に総会にご参加いただけます。是非ご利用下さい。  
シングル10部屋(10,550円)  
ツイン25部屋(1人使用一室:12,250円、2人使用1室19,100円)  
いずれも1泊朝食付を事務局で押さえております。当日(5月19日)ご宿泊をご希望の方は、4月20日(金)までに事務局武井までご連絡下さい。  
なお、部屋数に限りがございますので先着順とさせていただきます。ご了承ください。

## 編集後記

同窓会ニュース第12号をお届けいたします。同窓生の方々に、機械系にて取り組んでいる広報活動をご理解いただくよう、対外活動を中心とした記事を書く取り組みを行いました。同窓生の方々にこれら活動を周知頂き、今後ともご協力頂ければ幸いです。同窓生の方々に最後になりますが、原稿の執筆にご協力頂いた皆様には厚く御礼申し上げます。  
(岡部 朋永)